

秋のチャリティー ミュージックフェスタ

～ ピアノとうたとおしゃべりと～

2017.

10/21(土) 15時開演 (開場14時30分)

場所: 折尾クリスチャン・チャーチ

入場無料 (自由献金)

主催・お問い合わせ: 折尾クリスチャン・チャーチ

(〒807-0873 八幡西区藤原 2-12-6 / 093-692-9200)

※駐車場に限りがありますので、出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

公式サイト: www.oriochristianchurch.net

本コンサート開催による収益は

九州北部豪雨被災地 (福岡、大分) にそれぞれ寄附いたします。

美しい音楽で心安らぐ時間を過ごしていただき、
少しでも被災地の復興支援のお役にたてればと思います。

美しい調べを鑑賞後は、リフレッシュメントに
おいしいお菓子やドリンクをお楽しみください。
母子室をご用意しておりますので、どうぞ小さいお子様も
一緒にご来場ください。



小堀 英郎 Hideo Kobori (ピアノ)

大阪音楽大学を卒業後、フランスへ留学。パリ・エコールノルマル音楽院に在籍中はジェルメーヌ・ムニエ教授のもとで学び、国内外でのコンクールでキャリアを積む。現在は日本国内をはじめ、韓国やアメリカ、ヨーロッパを定期的に巡り演奏活動を展開。近年では韓国の大学講演に頻りに招かれ日韓の文化交流に欠かせない重要な役割を担っている。2004年のファーストアルバムを機に日本と韓国で計8枚のCDをリリースし、その作品は日本でお馴染みの韓流スターたちからも親しまれている。2016年秋、日本でのCDリリース10周年記念アルバム「奏でる愛の詩(うた)」を発売。フランス仕込みの感性と、韓国の情熱を持ち備えたピアノイズムで神の恵みを奏でる。大阪国際音楽コンクール審査員、米国日系人福音宣教協力会 (JEMS) 協力宣教師、日本国際飢餓対策機構の親善大使を努める。

オフィシャルサイト <http://www.kobori2002.jp/>

平田 葉子 Yoko Hirata (ソプラノ)

堀川高等学校音楽科、同志社女子大学音楽科声楽専攻卒業。同大学頒啓会特別専修科修了。アメリカへ留学し、ジュリアード音楽院イブニングディビジョン発声法・表現法を学ぶ。帰国後、声楽を京都芸術大学名誉教授 植田治男氏に師事。長岡京市主催オペラ「細川ガラシャ物語」に5回連続主演に選ばれ好評を得る。ミサ曲のソリストやオペレッタにも定期的に出演。短期大学での講師を経て、ヴォイストレーナーとして後進の指導にも力を入れつつ、夫でピアニスト小堀英郎と共に国内外で活動している。京都音楽家クラブ会員。2016年 ミニアルバム「愛されている」をリリース。



JR 折尾駅からバス (61・63・64・66・70・71・76・90番) に乗り、「藤原」で降車後、徒歩5分



小堀英郎足跡

イントロダクション

1971年大阪出身。幼少の頃から父親の影響を受けて、自然とピアノに触れる。4歳から本格的に教授のもとでピアノを学び始める。大阪音楽大学卒業後、フランスへ留学。在学中から演奏活動を開始。2001年の帰国後も現在に至るまで定期的に韓国やアメリカなどを巡り、多彩な活動を展開している。

信仰歴

1988年 JEC 宝塚福音教会 山下純男牧師より受洗（高校3年時）。
 1994年～2001年 パリ・プロテスタント日本語キリスト教会在籍。在仏中4年間、教会役員を務める。
 2001年～2007年 在日大韓基督教会・神戸東部教会聖歌隊 指揮者として奉仕。
 2003年、執事に任命される。
 現在は、在日大韓基督教会・京都教会で執事として在籍。

教会との出会い

1987年、当時高校2年の夏に父親が再婚。新しく迎えた義理の母がクリスチャンで、その結婚式を機に教会と出会う。その年のクリスマス集いに誘われて出席し、同年代の青年たちで成るワーシップチームの賛美に魅せられて、教会に通い始める。もっと詳しく聖書を学びたい、もっとイエス・キリストを知りたい、あのような輝いた賛美をしたいという思い一心に、毎日のように牧師宅を訪ね、聖書を学ぶ。その翌年、1988年4月3日イースターに受洗。大学生のキャンプや、超教派の集会などでの賛美奉仕を多く経験する。

神の恵みを奏でる手

音大生時代に単独車事故で左手首を損傷。完治の見込みなし、日常生活に欠かせない運動にも影響があるとの診断が下される。ピアニストとして、二度とステージに上がることが出来ないことを宣告される。

多くの祈りと励ましに支えられ、平安に守られ治療に専念。わずか2ヶ月後に奇跡的な回復をし、医師も言葉を失う。元通りにつながる可能性のない小さな関節の骨が、完全に回復していた。即りハビリに入り、わずか1週間後にピアノ練習を再開。その3ヶ月後にはステージで演奏会を行う。その奇跡的復帰体験を機にこう告白した。「この手は、もはや自分の手ではない。これまでは、良い成績を残して認められるように、一生懸命競争に耐えピアノを弾いてきた。しかし、これからは違う。神を賛美する手として、神の恵みを奏でる手として生涯捧げる」。

自分の信じる神は天地万物の創り主、この小さな男の小さな骨の痛みまで知っておられる。与えられたタラントを用いて、今日も多くの人に感動と幸せを届ける使命を受ける。

私と韓国

私は個人的に韓国を度々訪れては演奏し、交流を深めている。1993年に、初めて韓国を訪問した際、日本と韓国との悲しい歴史を見る。数々の痛ましく否定できない事実を知ってしまうと、このように彼らの前に出ることなど到底出来ない。

しかし、そんな日本人を暖かく迎えてくれた。日本を愛し、日本のために涙を流して祈る彼らの姿に、私の心は完全に砕かれた。私は願った。この音楽活動が、自分にとって多大な影響を与えてくれた韓国と日本との交流の掛け橋になることを。これからどうあれば、私達は幸せで平和な交流が出来るのか・・・明るい未来に目を向けたいのだ。音楽活動での交流は、そのための実に良い材料であり、機会となることを信じている。不思議な導きにより韓国のプロデューサーと出会い、ピアノソロアルバムの制作をすることに至った。すべて自作自演のピアノ曲。それら一曲一曲は、音による信仰告白である。7年間住み慣れたパリから帰国し、今でも鮮明によみがえる貴重な思い出にひたる、ノスタルジーな色で描いた1枚目のアルバム「Remember」（2004年11月）、愛すること、愛されることのすばらしさと喜びを綴ったロマンス系の2枚目アルバム「All about love」（2005年10月）。2006年5月には、ライブ企画より日本でもアルバム「Your First Love」を発売。2008年、アルバム「Bless You」を日本・韓国で同時発売。2013年、アルバム「Fragrance」を日本・韓国で同時発売。2016年、国内アルバムリリース10周年記念ベスト盤「奏でる愛の詩（うた）」を発売。今の時代、韓流ブームで世間は盛り上がっている。それは、以前の日本では想像出来なかった現象である。しかし、ある程度の時間が過ぎて、その関係が冷めていく事を恐れる自分も否めない。私にとって韓国は、「ブーム」ではなく「ライフ」である。

